

# アフガニスタンとペシャワール会の

## 現状報告

ペシャワール会名古屋 八木巖

ペシャワール会は今年で結成30年になります。多くの方には2001年アフガニスタン空爆よりのおつきあいとおもいますが、最近の活動について報告いたします。

アフガニスタンの治安状況は、2014年の米軍・治安維持軍の撤退に向けて、悪化しています。最近も、6月10日に、カブール空港にロケット弾が15発撃ちこまれたと報道されています。(この空港のターミナルはJICAが作ったはずです。)米軍撤退後のことはだれもわからないと思います。最近のイラクのようすなどをみても、いまだ「テロ」などの報道がされています。国をムチャクチャにして撤退などとふざけた話ですが、NATO諸国はアフガニスタン駐留はもう続けられないというのが本音です。中村哲さんが最近紹介する現地の言葉、「欧米人は時計で動くが、われわれは時間で動く、時間はいっぱいある」というのがあります。欧米は2014という時計で動いています。しかし、くぎった時間でどうなるわけでもなく、結局、治安維持軍は治安を悪化させただけで、「敗北」ということになりそうです。

アフガニスタンでなにが問題なのか？ これはペシャワール会、中村哲さんの一貫した主張であきらかです。温暖化による気候変化。山の雪がなくなっている。年々雪線が上昇している。そのため水がない、地下浸透水もなく、カレーズも干上がり、井戸の水も涸れる。逆に洪水が多発し、河川からの取水口が破壊され、水不足となり、干ばつが広がるという悪循環。これは今も続いている現実です。ペシャワール会がかつて最大1600か所の井戸をほりましたが、それも今、多くのところで、取水できなくなっています。続いている干ばつ。このことの理解がありません。続いている干ばつ。このことの理解がありません。本当はテロや治安のことや、よくわからない政治の先行きのことよりも、深刻な課題です。

これにどう対するか。河川からの取水しかありません。安定した取水、洪水による破壊に耐える技術、たとえ破壊されても地元の人の手で復興できる技術の確立。そして技術を持った農民の育成。長期的に維持管理できる地元の体制の構築ということです。このことすべてについて、今、中村哲さんはかなり自信をもっているように思えます。

まず技術的なこと。なんともいわれていますが、大事なことなので、再度言いますと、アフガニスタンの技術と日本の江戸時代ごろに確立した従来の工法とを結合して用水路を作っています。私は、先に福岡の朝倉市にある山田堰にしてみました。そこ

は中村さんがアフガニスタンで作った斜め堰のモデルだと言ってみるところですが、そこは江戸時代に干ばつと洪水をくりかえしたところで、飢饉がおこり、難民が福岡のほうまで流れついたらと文献にあるそうです。まさに今日のアフガニスタンの状況。200年前です。日本の在来の工法をもちいたというのは、たぶん個人的な趣味などの話ではなく、コンクリートなどの技術を持たない先人はどうたちむかったかという視点です。この工法は最近話題を集めていて、中村さんやペシャワール会の人たちが、土木学会で講演したりしていますし(ゼネコンには別の思惑があるかもしれませんが)、山田堰には海外からも多く視察される人がいるとのこと。

次に地域共同体の協力体制の構築ですが、これはたぶん中村さんが戦略的にみとおしていただと思われま。現実には水さえくれば、実際の水を見さえすれば、住民が自分たちで動き始めるだろうという読みがあつたのではないでしょうか。ペシャワール会の働きかけもありましたが、最近、自主的に地元集会所が開かれて、地域の人が協力して年2回、用水路の浚渫をすることが決まりました。これは大変大きなできごとでした。用水路が単に外国人がつくったものにとどまらず、地元で維持していくものとなったということです。中村さんの持論の一つは、アフガニスタンの基礎は農村である、自立した農村共同体を復活させること、これがアフガン復興の要である、ですが、これは実現されつつあります。

モスクやマドラサをつくり、地域共同体のよりどころをつくりました。ガンベリ砂漠の農場に、職員Ⅱ農民Ⅱ技術者を居住させるというのもその一つです。この農場ではアルファルファを栽培し、窒素肥料に替わるものをつくるということもしていますし、また耕作地の土地を肥やすために、水田を作って土を作ってから畑作をおこなうなどもしています。まさに自立した農業をめざしています。

この秋マルワリードとカシコートの連続堰の本格的な工事がはじまります。クナル川の左右両岸に取水口ができます。これで1万6500ヘクタールの耕地がうみだされ、65万人の農民が食べていける計算です。「緑の大地計画」、最後の局面です。課題はこのモデルを各地に、全国に展開することですが、さすがに、中村さんでも、それは無理で、国家的なプロジェクトとして展開してほしいというのが希望です、そうしたことを見据えて、現在JICAとの共同事業も行っています。(JICAと現地PMS・日本平和医療団との共同事業、いろいろと批判の多いJICAですが、そうした観点でJICAと協力しています。これまで、ペシャワール会は、現地では、ワイロを払わないということで、いわれのない「悪評」をふりまかれていましたが、JICAと協力ということと関係あるのかわかりませんが、現地政府のお役人がずいぶん視察にくるようになりました。これも現地にとっては良い展開になります。

最近、6月7日に福岡アジア文化賞の大賞をうけられた中村哲さん。「人間と自然の関係を問う直す時期にきている」と、受賞にさいしてのスピーチでかたられました。

この秋「緑の大地計画」大詰めの工事が 始まります。引き続きご協力をお願いします。

### ■心が動いたら会員に■

■会費(年会費)／(会計年度：4月1日～翌年3月31日)

学生会員：1,000円より

一般会員：3,000円より

維持会員：10,000円より

団体会員：30000円より

■会費・寄付などの納入方法

郵便局備え付けの払込取扱票をご利用ください

01790-7-6559

加入者名：ペシャワール会

## ☆☆ 映画「ひまわり」上映☆☆

沖縄宮森小学校ジェット機墜落事件を題材に沖縄復帰40年記念企画として製作された映画「ひまわり」上映が始まりました。名古屋でも劇場での上映が決まりました。

日時：7月13日(土)～7月19日(金) 10時40分から1回上映

10時30分までに窓口においでください

場所：名古屋シネマテーク <http://cineaste.jp/>

名古屋市千種区今池1-6-13 今池スタービル2F

TEL 052-733-3959

■ 当日券 一般1700円 大学生1500円 中学・高校生1200円

小学生・シニア(60才以上)1000円 木曜日は女性1000円

前売り券 一般・大学生1200円

※前売り券は劇場窓口・市内プレイガイドで発売中

※あいち沖縄会議のスタッフも前売り券を持っています!

